

大麦情報

No. 2

JAえちご中越 さんとう営農センター
電話番号(0258)41-2887

令和 7 年 4 月 1 日

越冬後の作業

令和 7 年産越冬後の大麦においては、すでに消雪となっている為、“排水対策”を行っていないほ場では直ちに水路の点検・整備を開始しましょう。また、排水対策後には以下の管理対策ポイントを参考として“**越冬後追肥**”を実施しましょう!!

▷ 今後の管理対策のポイント ◁

平均気温が 4～5℃
になると肥料の施肥
効果が現れます。
今後向こう 1 ヶ月の
季節予報での気温は
“高い”と予想される
ことから気温に注意
して早めに追肥を実
施しましょう!!

- ① 消雪後 **直ちに排水対策** (水路の点検・整備) を実施
↓
② 直ぐに **“越冬後追肥”** を必ず実施
→ 消雪直後、茎立期、止葉抽出期の 3 回が基本!
③ 雑草対策・病虫害防除を徹底

1. 排水対策 「排水対策」を徹底し、地表水の停滞による湿害を回避しましょう!

麦は気温の上昇に伴い、根の呼吸量が増加します。地表水の停滞によって根が呼吸できずに湿害（根腐れ）の原因になります。**越冬後、早急に明きょや排水溝の点検を行い、地表水の排水を促すとともに、定期的な連結部分等の点検・整備により湿害防止に努めましょう!**

2. 越冬後追肥

消雪後追肥は…

- ① 消雪直後追肥 ② 茎立期追肥 ③ 止葉抽出期追肥の 3 回施用が基本ジャ!

(1) 施肥量の目安

追肥時期	10 a あたり 窒素成分量	10 a あたり カリ成分量	品目 (例)	10 a 使用量	成分 (%)		
					N	P	K
1 回目: 越冬後追肥 すぐに実施!!	3kg	3kg	硫安	15 kg	21	0	0
			塩化加里 60	5 kg	0	0	60
2 回目: 茎立期追肥	2kg 以下	—	硫安	10 kg	21	0	0
3 回目: 止葉抽出期追肥	1～2kg	—	硫安	10 kg	21	0	0

※ 茎数過剰、葉色が濃い場合は、茎立期追肥と止葉抽出期追肥を減肥しましょう。



(2) 追肥の目安と判断基準

① 消雪直後追肥 → 越冬で消耗した麦の生育回復、穂数増加効果

- ◇ 時期: 平均気温が 4～5℃以上になった頃を目安とする
- ◇ 必ずほ場の排水対策（排水口の拡張、明きょ連結部分等の点検・整備）を行ってから施肥する
- ◇ 降雨による肥料の流亡、追肥後の積雪による障害を防止するため、天気予報を必ず確認する

② 茎立期追肥 → 穂数増加効果

- ◇ 時期: 主稈長が 2 cm 以上になった頃 (茎伸び始め)
- ◇ 消雪直後追肥に一発肥料使用の場合は省略できる
- ◇ 茎数と葉色を確認し、止葉抽出期追肥が確実に施肥できるように右表を参考に施肥量を調節する
- ◇ ほ場ごとの生育を確認してから適期に追肥する

茎数	葉色 (SPAD)	窒素成分量 (kg/10 a)
600 本/㎡ 未満	42 未満	2 kg
	42 以上	1～2 kg
600 本/㎡ 以上	42 未満	1～2 kg
	42 以上	施用しない

③ 止葉抽出期追肥 → 1 穂粒数と千粒重の増加に効果

- ◇ 時期: 全茎の 40～50% の止葉が抽出した頃
- ◇ 消雪直後追肥に一発肥料使用の場合は省略できる
- ◇ 追肥時期を逃すと追肥の効果が低下するので、生育状況を把握し適期に施用する (追肥時期が遅れたり追肥量が多すぎると硝子率が高まることから、右表を参考に施肥量を調節する)

茎数	葉色 (SPAD)	窒素成分量 (kg/10 a)
500 本/㎡ 未満	45 未満	2 kg
	45 以上	1～2 kg
500 本/㎡ 以上	45 未満	1～2 kg
	45 以上	0～1 kg

茎立期に施用せず、止葉抽出期以降に葉色低下が懸念される場合は増肥する。
2 kg/10 a

3. 雑草対策

停滞水が無くなったなら、必要に応じて生育期処理除草剤を散布しましょう。また、**麦角病の伝染源となるイネ科雑草の除去や雑草との養分競合を回避するため、除草剤散布による雑草対策を徹底**しましょう。

“スズメノテッポウ”に登録のある薬剤は少ないため、確実に除草を実施するんジャ!



資材名	対象雑草名	10 a 使用量	希釈水量	使用時期
ハーモニー75DF水和剤	1 年生広葉雑草 スズメノテッポウ	5～10 g	100 ℓ	播種後～節間伸長前 (但し、スズメノテッポウ5葉期まで) ※スズメノテッポウには効果が劣る
リベレーターフロアブル		60～80ml	100 ℓ	は種後～麦 3 葉期
リベレーターG		4～5kg		は種後～麦 2 葉期

4. 赤かび病防除

- ・基幹防除として、**開花期 (出穂期の 4～7 日後頃)** とその 7～10 日後の **2 回防除を徹底** しましょう。
- ・収穫前に発病状況を調査し、**発生している場合は発生のないほ場とは別に収穫・乾燥・調製を徹底!**

体系	資材名	10 a 使用量	希釈倍率	使用時期
個人防除	1 回目	トップジンM水和剤 60～150 ℓ /10a	1,000～ 1,500 倍	開花期 (収穫 30 日前まで)
	2 回目	チルト乳剤 25 60～150 ℓ /10a	1,000～ 2,000 倍	1 回目防除の 7～10 日後 (収穫 21 日前まで)

※ 農産物検査法の検査規格: 赤かび粒混入限度 0.0%

～～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～～